

坂戸市立南小学校 笑顔・感動・花いっぱい

# 夢道場・南小だより

【学校教育目標】

- やさしく (徳)
- かしこく (知)
- たくましく (体)

令和4年12月9日  
第29号

学校経営方針 「明るく 元気に 爽やかに すべての対応を親身になって丁寧に」

## 『言葉は心の鏡』～『美しい言葉は、美しい心』もっと言葉を大切に～

【お話朝会より】 11月も「実りの秋」にふさわしく、南っ子の皆さんのたくさんの活躍する姿が見られたり、先生方から、皆さんの頑張っている様子をたくさん聴いたりしています。この間の持久走大会でも、遅い皆さんの立派な姿がたくさん見られました。普段の授業中の様子、委員会活動、係や当番活動、掃除、さらには学年行事などにも、本当に皆さんはよく頑張っています。校長先生の心も、皆さんの頑張っている素敵な姿やたくさんの笑顔で、秋晴れの澄み渡る真・青な空のようにとっても気持ちがいいです。



今日のお話は、『言葉の大切さ』について一緒に考えてみたいと思います。「言葉の大切さ」は、南っ子の皆さんも分かっていますよね。「おはよう」「ありがとう」「おめでとう」「がんばって」「ごめんなさい」「さようなら」。たった一秒ほどの言葉ですが、人の気持ちを温かくすることがあります。逆に、同じように一秒ほどの言葉でも、お友達や相手を嫌な気持ちにしたり、心を傷つけてしまったりする言葉もあります。10秒ほど時間をあげますので、心の中で思い浮かべてみてください。【10秒間】皆さんは、どのような「嫌な気持ちになる言葉」を思い浮かべましたか。その中には、この世の中にたった一つのかげがえのない一番大切な命なのに、絶対に言ってはならない命に関わる二文字の言葉を思い浮かべた人もいます。その他にも、身体のことや嫌なあだ名などもあります。これから、皆さんと一緒に『言葉の大切さ』を考えるために、□□先生が詩を紹介してください。

えんぴつで かいた字は けしゴムで きえる / こくばんに かいた絵も こくばんふきで けせる /  
口からでてしまった ことば けす けしゴムはないんだね / とりだせないんだね きみの耳に ささった  
ぼくのことば / わすれられないよ ぼくのむねに ささった きみの目 / ことばをけす けしゴム  
あったらいいなあ・・・ 『ことばの消しゴム』(『とうさんのラブレター』より) / 作・なかの ひろ

皆さん、いかがですか。小さな言葉でも人の心が温くなる大きな力になるものがあります。でも、言葉によっては武器や凶器にもなり、時として相手の心に深い傷を負わせてしまいます。一度口から出てしまった言葉はもう飲み込めません。言う前の言葉は「自分のもの」、言ってしまったら「相手のもの」です。お友達が傷つくのがわかっていて、または傷つけようとして、わざと嫌な言葉を使う人は、この南小にはいないと信じています。

しかし、厄介なのは、言葉を使った本人がそれに気付かないで、知らず知らずのうちに使ってしまうことも多いということです。わざと言ったつもりはなくても、一度口から出た言葉は消せません。だから自分の言葉には責任をもって、正しく使いたいですね。でも、もしわざとではなくても、お友達の心を傷つけるような言葉を間違えて言ってしまったら、素直に反省し、それを消してあげる「心の消しゴム」をもっていたいですね。

最後にもう一つ、詩人として有名な北原 白秋の『ひとつのことば』という詩を皆さんに紹介します。【詩の朗読】日本には昔から「言葉には魂、見えない力が宿る」という意味の『言霊(ことだま)』という言葉があります。『言葉は心の鏡』とも言われます。

皆さんの「心の鏡」はいかがですか。「きれいな言葉は、きれいな自分の心」。『優しい言葉は、優しい自分の心』、『美しい言葉は、美しい自分の心』。『チクチクした言葉は、とげとげした自分の心』、『汚い言葉は、汚れた自分の心』。南っ子の皆さん、たくさんのお友達と一緒に生活する中で、これからも皆で優しい心や美しい心をさらに磨いて、『美しい言葉』を大切にしていましょうね。今日もお話をしっかり聴いてくれて、「ありがとう」。

『ひとつのことば』 北原白秋  
ひとつのことばで けんかして  
ひとつのことばで なかなかおり  
ひとつのことばで 頭が下がり  
ひとつのことばで 心が痛む  
ひとつのことばで 楽しく笑い  
ひとつのことばで 泣かされる  
ひとつのことばは それぞれに  
ひとつのころを 持っている  
きれいなことばは きれいな心  
やさしいことばは やさしい心  
ひとつのことばを大切に  
ひとつのことばを美しく



# 【南小『人権教育強調月間』】

12月10日は、『世界人権デー』。1948年(昭和23年)に国際連合が「世界人権宣言」を採択した日です。「人間は、人種、性別、言語、または宗教によって差別されてはならない。全ての人間の人権と基本的自由は尊ばれ、守られなければならない」という趣旨が、世界人権宣言の条文の中に一貫して述べられています。この日に因み、南小でも、12月を『人権教育強調月間』とし、様々な人権に関する学習を行っています。

今年、埼玉県教育委員会主催の『埼玉県人権教育実践報告会』が坂戸市文化会館で開催され、本校の□□□□さん(2年生)の人権作文が県の代表に選ばれました。12月のお話朝会でも発表してくれましたので、改めて内容をご紹介します。

## みんな同じ人間

男の子色ってどんな色？ 女の子色ってどんな色？  
ぼくは、青・黒・みどりは男の子っぽい色で、ピンク・赤は女の子っぽい色のような気がします。でも、色に男や女はあるのかな？

ぼくの好きな色は、みどりで。わけは、ぼくの好きなカメの色できれいだからです。

かわいいふくが好きな男の子もいるから、ハートのもようやリボンのふくをきたければきれいじゃありませんかと思ひます。カッコイイふくが好きな女の子は、きていてうれしい気持ちになるならきれいだと思ひます。

よの中には、サッカーが好きな女の子やあみものが好きな男の子がいるので、がまんしないで好きなことができると思ひます。

人の気持ちとか好きな色とかは、みんなちがうから、まわりの人がダメだと言っははいけないと思ひます。しょうらいのゆめはみんなちがうから、いろいろなしごとの人がいるので、ひとりひとりの好きなことやすきなものをたいせつにしたいと思ひます。

みんなちがうからいい。みんな同じ人間だから。。。。。

## 環境美化委員会 & 学校応援団『人権の花』

「相手の立場を考へて行動する心や思いやりの心、生命の尊さ、感謝の気持ちを育てる」等、人権尊重の意識を子供たちに身に付けさせることを目的に、今年度も法務省人権擁護委員会から『人権の花』(パンジー苗とナチュレ苗、各140ポット)が贈られました。秋晴れの中、学校応援団の皆さんと環境美化委員の児童たちが一生懸命花植えを行ってくれました。『人権の花』の意義を大切に、今後も思いやり溢れる学校づくりを推進していきます。






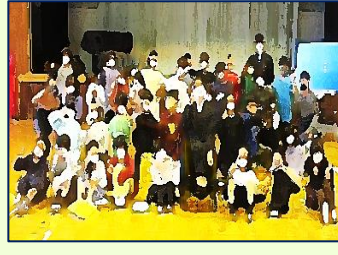
# 【夢道場・南小『ほっとニュース』】

## 4年生・総合『ともに生きる/福祉体験学習』

4年生は、総合的な学習の時間で『ともに生きる』をテーマに『福祉』についての学習を進めてきました。既に「高齢者疑似体験」の体験学習を行いました。今回は「車イス、アイマスク・白杖体験」を行いました。体育館、廊下や階段を使い、足や目の不自由な方々の気持ちを実際に理解することで、介助する側の大切な心得などを学びました。

また、福祉教育講演会として、東京パラリンピック2020の競泳女子自由形で日本代表として活躍された、小池さくら選手(大東文化大学3年生)をお招きしました。脊髄硬膜外血腫のため下半身麻痺となり、ずっと車イスで生活をされてきた小池選手が、どのように障がいと打ち克つてきたかを、周囲の支え等の体験談を交えて講演して下さり、4年生たちは真剣に話を聴いていました。

『福祉』とは、『だんのらしのあわせ』と言われていいます。ノーマライゼーションやバリアフリーの大切さとともに、子供や大人、高齢者や障がいのある人など、お互いに「思いやり」の気持ちをもって、共に支え合って生きていくことが大切であることをしっかりと学んでいました。



## 3年生・校外学習『戦争の悲惨さを学ぶ』

埼玉県立平和資料館による出前授業『ピースキャラバン』の平和学習から、さらに戦争について身近に感じることができるようにと、3年生は、坂戸市内の近隣にある「戦争の足跡」の場所を探索してきました。

まさに南小学校の南側に、「旧陸軍坂戸飛行場の滑走路」や「飛行機誘導路ペトン」があったことを知るとともに、坂戸中学校の校庭に今も現存する「旧陸軍の給水塔跡や弾薬庫」を見学しました。坂戸中学校の田中校長先生からお話をいただくとともに、幅7.6M、奥行き5.6M、高さ4.3Mの堅牢な弾薬庫2棟を外観だけでなく、実際に庫内を見学する等、貴重な体験をさせていただきました。弾薬庫の外側には、広島に原爆が落とされた時、被爆したアオギリの種から育てたアオギリ2世が大きく育っている姿も見学できました。3年生たちは、改めて戦争の悲惨さと戦争の無い平和な世界を築いていくことの大切さを真剣に学んでいました。

